

日本映画衛星放送株式会社 第37番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成26年1月14日(火) 15時～16時
2. 開催場所 : 東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル15階
日本映画衛星放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席 : 委員総数 8名 / 出席委員数 8名
出席委員(順不同、敬称略): 菊地 実・川本 三郎・坂井 保之・鈴木 嘉一・
曾根 和子・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正
放送事業者側出席者: 代表取締役社長 杉田 成道
常務取締役 酒井 彰
編成制作局長 宮川 朋之
編成制作部長 澤 尚志
番審担当 堤 靖芳
清水 明(記)

4. 議題(1) 審議事項

日本映画専門チャンネルにおけるテレビドラマ等の編成について。

(2) 報告事項

時代劇専門チャンネルでの「暴れん坊将軍」放送について。

5. 議題(1) 概要

日本映画専門チャンネルは、その名が示すように、日本映画を専ら編成し、日本人の魂の文化遺産とも言うべき日本映画の豊饒な世界を、様々な企画や特集を通じて視聴者に提供している。それは今後も変わることがない。しかし、1970年頃を境に日本映画のブロックブッキングおよびプログラムピクチャーは崩壊し、近年はテレビドラマの映画化作品など地上波テレビ局主導の映画が実写邦画興行成績の上位を独占する状況となった。日本映画専門チャンネルも、様々な形でテレビ局主導の映画、あるいはその関連テレビドラマ等の編成を行うようになってきている。ついては、

◇テレビドラマを編成することについて。

◇現在のテレビドラマ映画化作品やテレビドラマの編成状況について。

◇今後のテレビドラマ等映画以外のコンテンツの編成について。

以上についてご審議を頂き、日本映画専門チャンネルにおけるテレビドラマ等映画以外のコンテンツに関して、現状のご評価と将来への指針についてご審議頂いた。

6. 議題（1）審議内容

- ・日本映画専門チャンネルは、まず「映画ありき」だが、映画に合わせてテレビドラマを放送するという基本スタンスを間違えなければ、ドラマを放送しても構わない。映画とドラマの相乗効果も期待できる。
- ・ヒットドラマは幅広く人々の興味を喚起し、多くの人にとって親近感がある。だからテレビドラマの映画化作品や、その映画を放送する際にオリジナルのドラマを編成していると、門戸が広く開かれた感じがするし、気楽に見られて良い。
- ・視聴者はテレビと映画の区分など気にはしていない。ただ、見る価値がしっかりある作品を選ぶことが重要だ。映画と比肩し得るレベルの作品を選ぶ必要がある。ドラマのレギュラー枠を持つのであれば、チャンネルらしさを保つことが条件だろう。
- ・若い世代に顕著だが、映画とテレビの垣根は低くなった。その区別にこだわる必要はない。ただ、ドラマのレギュラー枠を持つのなら、どう浸透させていくかに留意すべき。
- ・映画以外のコンテンツを放送することも、チャンネルが放送を続けていく中でのトライアンドエラーのひとつとして賛成だ。視聴者も問題視しないと思う。もっと自信を持って大胆なトライをしても良い。
- ・チャンネル名が「日本映画専門チャンネル」なので、非映画コンテンツが過剰になると、視聴者が裏切られた印象を持つ可能性はある。
- ・基本的に日本映画をしっかり見せつつ、関連作品とか、新作映画公開連動だとか、分かりやすくドラマを配すべきだ。また、現在の視聴習慣について、どう分析しているのか？ ドラマの一举放送についてはどういう理由があるのか？
- ・テレビドラマとそれを製作し、最初に放送したチャンネルとは、アイデンティティとして深く結びついている印象がある。日本映画専門チャンネルで放送するに当たり、違和感はないか？ また、コンテンツをオープンに考えるのであれば、洋画や海外ドラマを放送することも可能性としてはあると思うがどうか？

<事業者回答>

- ・日本映画専門チャンネルの場合、毎週日曜夜9時からの「日曜邦画劇場」は視聴習慣が出来ていると思うが、その他の時間帯は、視聴習慣という意味で非常に難しく感じている。そこは、時代劇専門チャンネルと大きく異なっているところだ。ドラマを編成するのに、日本映画専門チャンネルのアイデンティティを崩さないようにしなければいけないと私共も考えている。作品については、製作した局の意向もあり、許諾が取れない場合もある。そうした意味では、洋画や海外ドラマはハードルが高いと言わざるを得ない。ドラマの編成に当たっては、一举放送した方が話題性もあるし、視聴率も高く出る。
- ・チャンネル設立時と現在とでは、視聴者の性格や数も、チャンネルが置かれている環境も、大きく異なっている。現在は視聴率を競っていかねばいけない立場だ。チャンネルのコンセプト、イメージは大切にしていきたいが、そこに悩みがある。

7. 議題（2）報告事項

時代劇専門チャンネルでは、2013年10月、人気番組「暴れん坊将軍」のレギュラー放送を終了した。番組終了の反響は大きく、番組再開のリクエストの声が多数寄せられた。そこで、2014年1月にスペシャル版15作を一挙放送したが、大変好評だった。満を持して2014年4月からHDでレギュラー放送を再開し、シリーズ1作目よりシリーズ全832話を放送していく。折しも主演の松平健さんは、今年芸能生活40周年を迎えられた。あらためて大きく「暴れん坊将軍」を展開していきたい。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、2014年3月11日開催。